

## 海部沿岸の海藻類分布調査一Ⅱ

中久喜昭・谷本尚則・小島 博

本県南部沿岸，特に日和佐町から海南町沿岸にかけて，前報で報告した通り，昭和45～46年頃から海中林を形成するアラメ，カジメ，ホンダワラ類が減少し，採貝，採藻漁業への影響が出はじめた。これら磯焼け漁場のアラメ類の分布調査を昭和48年から3箇年実施して来たが，磯焼け漁場が経年的に拡大して来たこともあって，調査を継続したので結果の概要を報告する。

### 1. 調査方法

昭和51年度の調査場所は図1に示した海南町網代崎，牟岐町砂美，権現地先で実施した。調査は，海南町網代崎を昭和51年4月，牟岐町沿岸を同年7月，調査基点の水深0 m（D.L. 0 m）に基点を設け，基点から沖合に向って，メートルロープを海岸線に垂直に敷設し，このロープラインに沿って，基点から20 m間隔で坪刈（1.0×1.0 m 枠）と水深測定（デプスマータ）を実施した。

また、昭和52年度は海南町網代崎、牟岐町水落、由岐町阿部地先に調査地点を設けて実施した。調査は昭和52年7月、前年度と同様な方法で坪刈調査、水深測定を実施した。

なお、坪刈により採集した試料は実験室で種類別湿重量を測定した。

## 2. 結果および考察

### 1) 昭和51年度調査

海南町網代崎、牟岐町砂美、権現地先の各調査地点における海藻類の組成分布、並びに海底地形は図2に示した。この図から各調査地点の海藻類の分布、海底地形をみると、海南町網代崎地先の海藻類は距岸80m、水深5m以浅のアラメ、ホンダワラ、ウミウチワ、アミジグサ等の褐藻類、テングサ、サンゴモ等の紅藻類が着生する。この海藻類を有用海藻のアラメ、ホンダワラ類、テングサ類とその他の褐藻類及びその他の紅藻類に区分して組成分布をみると、その他の褐藻類の組成比率が58~80%と高いが、アラメ、ホンダワラ類が8~29%、その他の紅藻類が17~26%と低く、テングサは調査基点で僅かに採集されたが、組成比率は水深が深くなるに従って、アラメ、ホンダワラ類の比率が低下したのに対し、その他の褐藻類は逆に増加するようであった。

次に牟岐町砂美地先の海藻類は距岸80m、水深4m付近まで分布するが、種類はアラメ、ホンダワラ類、ウミウチワ、アミジグサ等の褐藻類、テングサ、サンゴモ等の紅藻類である。この水域の組成分布を比較すると、アラメ、ホンダワラ類は水深の浅い調査基点が13%、距岸20m地点が59%の出現であった。テングサは調査基点が100%、距岸20m地点で37%と水深が深くなるに従って組成比率が低下したが、逆にその他の紅藻類が距岸40~80mに97~98%と高い

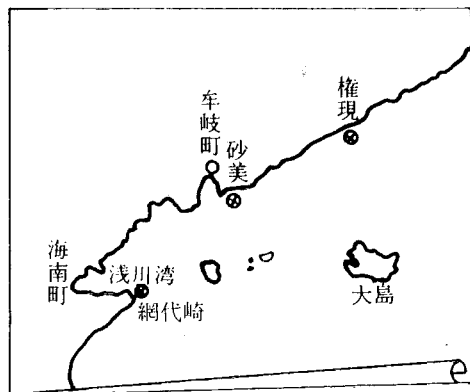


図1. 調査地点

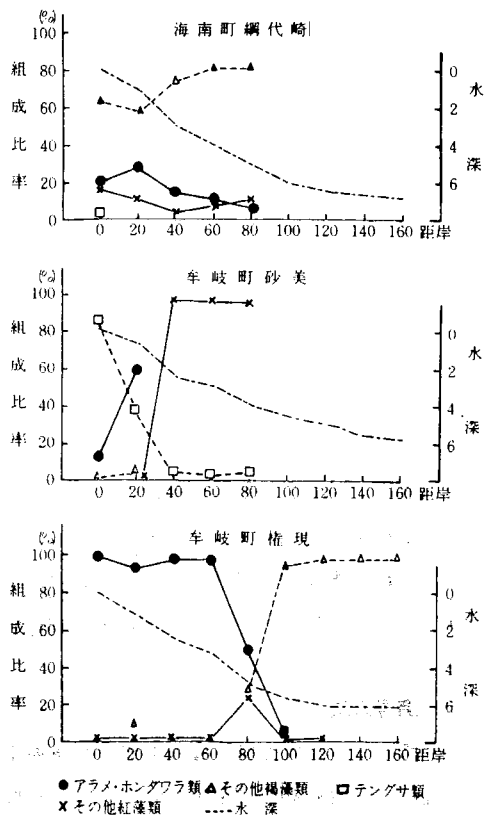


図2. 海藻類の組成分布と海底地形

比率を示した。

一方、牟岐町権現地先の海藻分布は距岸160 m、水深6 mまで分布する。種類はアラメ、ホンダワラ類、ウミウチワ、アミジグサ、ヘラヤハズその他、サンゴモが着生する。このうち、アラメ、ホンダワラ類は距岸100 mまで分布するが、その組成は距岸60 m、水深3.5 m以浅で、94～98%と高いが、距岸80 m地点が51%、100 m地点が5%と沖合で低下し、逆にウミウチワ、アミジグサ等その他の海藻類が距岸100 m地点から沖合で95～100%と組成比率は高かった。

以上の結果からみて、海部下灘沿岸の磯焼け水域における海藻類の分布は、アラメ、ホンダワラ類の組成比率に対し、海南町網代崎地先がウミウチワ、アミジグサ等のその他の褐藻類が、また牟岐町砂美地先がテングサ、及びサンゴモ等の組成比率が高く出現したが、牟岐町権現地先では水深が3.5 m以浅の浅い水域にアラメ、ホンダワラ類が優占するものの、水深が5.7 m以深ではウミウチワ、アミジグサ等のその他褐藻類が優占しており、磯焼け水域の海藻類はウミウチワ、アミジグサ、サンゴモ等の占める割合が大きいと見えそうである。

## 2) 昭和52年度調査

海南町網代崎、牟岐町水落、及び由岐町阿部地先における各調査地点の海藻類の組成分布と海底地形は図3に示した。この図から各調査地点の海藻類の分布、海底地形をみると、海南町網代崎の海藻類は距岸160 mまで分布するが、種類はアラメ、ホンダワラ類、ウミウチワ、アミジグサ等の褐藻類、テングサ、サンゴモ等の紅藻類である。このうちアラメ、ホンダワラ類が距岸20～100 mに、ウミウチワ、アミジグサ等のその他の褐藻類、サンゴモのその他の紅藻類が分布し、テングサは調査基点のみで採集した。これら海藻類の組成分布は調査基点でテングサが100%と高く、アラメ、ホンダワラ類は距岸20～100 mで61～98%と優占したが、距岸120～160 mにはサンゴモの紅藻類、ウミウチワ、アミジグサ等の褐藻類が多く、なかでもサンゴモが優占した。

次に牟岐町水落地先の海藻類は距岸100 m、水深5 mまで分布する。種類はアラメ、ホンダワラ類の他、ウミウチワ、アミジグサ等の褐藻類、テングサ、サンゴモ等の紅藻類である。このうちアラメ、ホンダワラ類が距岸20～100 mに、サンゴモが調査基点から距岸100 mに、また、ウミウチワ、アミジグサが基点から距岸40 m、100 mの地点に、テングサが距岸20～40 m、100 m

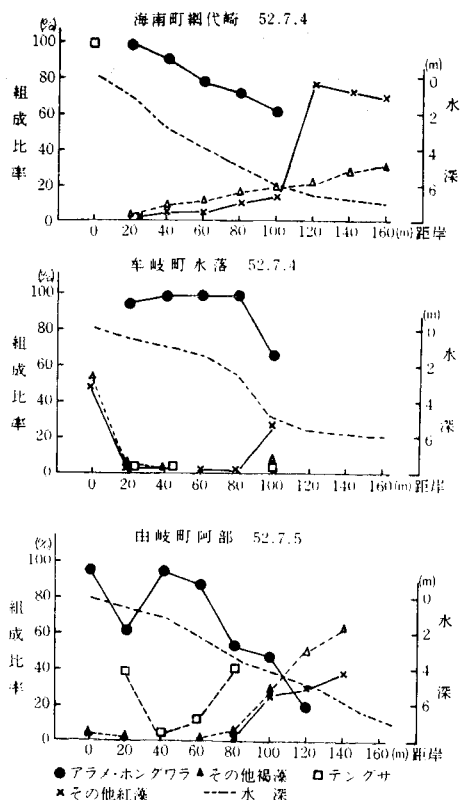


図3. 海藻類分布組成と海底地形

の地点に分布する。

これら海藻類の組成分布は調査基点でウミウチワ、アミジグサ、サンゴモが優占するが、距岸 20~100 m ではアラメ、ホンダワラ類が優占した。

一方、由岐町阿部地先の海藻類は距岸 140 m、水深 6 m 以浅に分布する。種類はアラメ、ホンダワラ類、ウミウチワ、アミジグサ等の紅藻類、テングサ、サンゴモ等の紅藻類である。このうち、アラメ、ホンダワラ類は距岸 120 m まで、テングサが距岸 20~80 m 区、ウミウチワ、アミジグサが距岸 20 m と 60~140 m 区、サンゴモが距岸 80~140 m 区に分布する。

これら海藻類の組成分布は、距岸 100 m までアラメ、ホンダワラ類が優占するが、距岸 120~140 m ではウミウチワ、アミジグサが優占した。

以上の結果から海南町、牟岐町、由岐町沿岸のアラメ、ホンダワラ類の分布組成をみると、海南町網代崎地先で水深 6 m 以浅で、牟岐町水落地先で水深 5 m 以浅で、由岐町阿部沿岸で水深 4 m 以浅でアラメ、ホンダワラ類が優占するが、これより沖合の水域ではウミウチワ、アミジグサ、サンゴモが優占するようである。